

■流域委員会への意見

町田輝次

9月27日の新聞報道によれば、4ダム建設拒否と掲載されていました。昨今のゲリラ豪雨や大型台風の襲来による大規模な水害が全国各地で発生している現状を見るにつけ、マスコミを含めダムの是非に議論が集中し、最も尊重されるべき水害当事者の意見をどう反映されたのか大いに疑問を感じます。私も子供のころ日本三大急流のひとつである富士川が台風水害で氾濫し、家屋浸水と避難体験から、他人事とは思えません。新聞記事が事実とすれば、今回の最終報告について「責任を持たない評論家」の立場を超えていないと痛感しています。私の持論として、「世の中何をしても良いことと悪いことが同時に起こる」わけですから、今回のような多様な立場及び意見の相違がある場合、総ての当事者は水害被害当事者の意見を最大限尊重するという合意形成が事前に必要であります。そこで、効果的な治水対策としてダムが必要であればそれに伴う環境問題は技術などで補うことが人間の生きる知恵だと思います。環境を守るためにダムが不要という考えは洪水被害当事者の切なる安全で安心して暮らすという生活環境権を奪うものと私は考えます。

そうでないと、車に乗ることさえ環境破壊の当事者となってしまう、総ての人が車に乗れないこととなります。やはり、多様な考えの人々が争わず生き抜いてためには、「発展と持続可能な社会形成」が必要であり、このためには人間しか出来ない知恵を互いに出し合い、譲り合いながら共存していかないと紛争になってしまいます。

最近の淀川水系流域委員会について、いろいろの意見がある中で、どう合意形成を図っていかれるのか期待した一人としてきわめて残念です。国土交通省にあっては野球で言えば責任ある監督として、水害被害者の立場を最優先にした日々安全して安心して暮らせる必要な施策を速やかに推進するよう切望します。